

(3) 収入状況

①生活に必要な収入があるか

	生活に必要な収入がある (%)	ぎりぎり生活に必要な収入はある (%)	生活に必要な収入はない (%)
フィジー	6	50	44
インド	8	78	14
日本	35	54	10
カザフスタン	15	80	5
韓国	6	47	47
パキスタン	13	84	3
フィリピン	25	47	27
タイ	41	39	20
平均	19	60	21

②自分の生活を支えるだけの収入があるか

	はい (%)	いいえ (%)
フィジー	27	73
インド	43	57
日本	66	34
カザフスタン	22	78
韓国	19	81
パキスタン	30	70
フィリピン	36	64
タイ	44	56
平均	36	64

(5) 家計

①被扶養者がいるか

	はい (%)	いいえ (%)	被扶養者の数 (平均)
フィジー	74	26	3.6
インド	53	47	2.5
日本	24	76	1.6
カザフスタン	44	56	1.8
韓国	60	40	2.1
パキスタン	19	81	2.4
フィリピン	56	44	3.1
タイ	31	69	2.4
平均	44	56	3.6

② 被扶養者の生活を支えるのに十分な収入があるか

	はい (%)	いいえ (%)
フィジー	20	80
インド	20	80
日本	29	71
カザフスタン	8	92
韓国	8	92
パキスタン	25	75
フィリピン	20	80
タイ	27	73
平均	20	80

(6) 雇用形態

	被用者 (%)	自営 (%)	働いていない (%)	働いていないし求職もしていない (%)
フィジー	4	12	27	56
インド	9	61	29	1
日本	60	10	10	21
カザフスタン	40	4	33	22
韓国	7	20	3	70
パキスタン	29	13	32	26
フィリピン	25	27	31	17
タイ	25	49	18	8
平均	25	24	23	28

(7) 公共交通機関・道路・建築物のアクセシビリティ

	アクセシブル (%)	介助があればアクセシブル (%)	アクセシブルでない (%)
フィジー	35	45	20
インド	25	28	47
日本	59	40	1
カザフスタン	53	30	17
韓国	66	29	5
パキスタン	25	37	39
フィリピン	63	25	12
タイ	58	37	5
平均	48	34	18

(8) 行政からの家計への支援

	はい (%)	いいえ
フィジー	32	68
インド	79	21
日本	74	26
カザフスタン	72	28
韓国	59	41
パキスタン	3	97
フィリピン	32	68
タイ	99	1

(9) 教育を受けた機関

	普通学校 (%)	特別な支援がある学校 (%)	その他(公的以外の教育) (%)
フィジー	87	13	1
インド	98	2	0
日本	70	21	9
カザフスタン	58	40	2
韓国	81	1	15
パキスタン	46	51	3
フィリピン	91	8	1
タイ	70	12	17
平均	75	18	6

(10) 卒業したかどうか

	はい (%)	いいえ (%)
フィジー	24	76
インド	48	52
日本	71	29
カザフスタン	85	15
韓国	75	25
パキスタン	63	37
フィリピン	49	41
タイ	70	30
平均	61	39

(11) 職業訓練を受けたことがあるか

	はい (%)	いいえ (%)
フィジー	22	78
インド	40	60
日本	29	71
カザフスタン	45	55
韓国	27	73
パキスタン	22	78
フィリピン	53	47
タイ	47	53
平均	39	61

(12) 職業訓練以外の訓練を受けたか

	はい (%)	いいえ (%)
フィジー	26	74
インド	27	73
日本	18	82
カザフスタン	55	45
韓国	12	88
パキスタン	35	65
フィリピン	53	47
タイ	38	62
平均	36	64

(13) 医療機関に定期的に通院しているか

	はい	いいえ
フィジー	60	40
インド	74	26
日本	77	23
カザフスタン	68	32
韓国	76	24
パキスタン	6	94
フィリピン	39	61
タイ	53	47
平均	57	43

(14) 行政から十分な情報を得ているか

	はい	いいえ
フィジー	54	46
インド	81	19

日本	74	26
カザフスタン	56	44
韓国	68	32
パキスタン	54	46
フィリピン	82	18
タイ	55	45
平均	65	35

5. 国内調査の主結果

(1) 居住地

市	町	村	その他
118	7	3	0

(2) 家計収入 (週) 回答数 106 平均家計収入 112,887 円 (\$1,414)

(3) 行政からの手当を受けている世帯 回答数 117 中 88 世帯 (82.2%)

(4) 持ち家率 回答数 115 中 80 世帯 (70%)

(5) 障害種別

肢体	視覚	聴覚	言語・音声	知的	精神	重複	その他	不明	全体
66	17	24	15	11	17	20	21	0	191
35%	9%	13%	8%	6%	9%	10%	11%	0%	100%

(6) 福祉機器使用者 回答数 128 中 77 人 (60.2%)

(7) 日常生活に支援を必要としている人 回答数 125 中 43 人 (34.4%)

(8) 日常生活で十分な支援を受けている人 回答数 41 中 40 人 (97.6%)

(9) 教育で特別な支援を受けていた人 回答数 127 中 37 人 (29.1%)

(10) 就労状況

被雇用者	自営	働いていない (求職中)	働いていない (求職していない)	全体
76	12	12	26	126
60.0%	9.5%	9.5%	20.6%	100%

(11) 家計に貢献している人 回答数 113 中 67 人 (59.3%)

(12) 行政からの手当を受給している人 回答数 124 中 92 人 (74.2%)

(13) 定期的に医療機関を受診している人 回答数 124 中 95 人 (76.6%)

(14) さらに医療機関を受診することを希望している人 回答数 119 中 43 人 (36.1%)

考察

障害認定のありかたについて検討する視点から本調査から得られる知見について検討する。

(1) サービス評価基準の明確化

各国調査の結果をみていると、国際的な比較をするためにアジア太平洋地域の8カ国に調査を依頼したにもかかわらず、十分な比較ができていないという結果になっている。また、経験的な感覚からずれている。

例えば、「(7) 公共交通機関・道路・建築物のアクセシビリティ」について、「介助があればアクセシブル」と答えているのは、フィジーが45%で第1位、日本が40%で第2位、パキスタンとタイが37%で第3位となっている。経験的には、フィジーには鉄道網がなく、バスが主な交通手段である

ために、公共交通機関を車いす使用者や視覚障害者が利用するのは困難ににもかかわらず、日本のように鉄道網が発達し、駅にはエレベーターがあり、駅のホームにはホームドアが設置されている国よりもアクセシブルとは考えられない。しかし、回答では、フィジーの方がアクセシブルになっている。

この原因として考えられるのは、介助の意味が定義されていないことではないかと考えられる。例えば、「介助があれば」という意味について、フィジーは、車いす使用者をバスのスタッフや乗客が「抱え上げてバスに乗せてくれれば」というような意味で介助をとらえているのではないだろうか。ところが、日本の車いす使用者は、電車に乗る際に駅員がボードをもって手伝ってくれれば電車を利用できるという意味で使っているかもしれないのである。

適切に比較するためには、どういう状態がアクセシブルなのかについて具体的に示さなければならぬ。例えば、「ラッシュ時ではないとき駅員がボードを駅のホームと電車のフロアの中間のギャップ敷いてくれれば電車を利用できますか」というような具体的な質問をしないと比較できない。

ただし、このような鉄道の利用についていえば、フィジーのように鉄道のない国の場合は回答不能ということになるので、比較対象になっている国々に共通の質問を考えなければならない。このような比較のための質問項目も研究が必要であろう。

(2) 機能障害の明確化

やはり、同じ質問項目で、「(7) 公共交通機関・道路・建築物のアクセシビリティ」について、「アクセシブル」と回答しているのは、韓国が66%で第1位であり、フィリピンが63%で第2位、日本が59%で第3位となっている。

しかし、これについても、機能障害の程度が示されていないと、アクセシビリティの比較はできない。機能障害が軽い場合は、手を支えることでバスに乗車できるのかもしれないが、車いす使用者の場合は、無理ということもある。

本研究においては、「II. 障害者個人プロフィール」において、「障害の状態について簡単に記述してください。」という項目があるが、簡単に記述しても比較は難しいであろう。これらの点については、本報告書にもあるワシントングループについての報告が参考になると思うが、障害の状態を簡潔に把握できる質問項目にしておかなければ比較は無理であろう。ICFの活用やパラリンピックの障害レベルの評価なども参考になると思われる。

(3) サービスの明確化

「(14) 行政から十分な情報を得ているか」という質問があるが、どんな情報のことかわからないので回答が大雑把になってしまう。例えば、「月1回程度の市政だよりが自宅に届くか」とかサービスを明確にしないと比較はできない。「(8) 行政からの家計への支援」があるかという質問もあるが、どのような支援なのかが明確でない。例えば、金銭給付のことなのか食糧券のようなものなのかを区別する必要があると考えられる。その程度も問題であるが、これは、(1)の評価基準の明確化に含まれる。

(4) 質問の意味の明確化

「(13) 医療機関に定期的に通院しているか」という質問項目があるが、どのような目的でそれを訪ねているのかわからない。例えば、医療機関を定期的に利用できた方が生活の質が高いからその質問をしているのか、定期的に通院する医療機関があることで医療制度が充実していることを明らかにしたいのか、いろいろ質問の意味が考えられる。この質問では、単に医療機関に定期的に通院しているかを尋ねているので回答できるように思われるが、実は、報告書にはないが、質問項目には続きがあり、「5.8 医師や保健師・看護師に今以上に診察や指導を受けたいですか。」という質問がなされる。この意味は、不明確で、医師や保健師が信頼できないからこれ以上医療を受けたくないのか、受診費用が支

払えないから医療機関を受診したくないのか、医療機関が遠いため体力的に無理なのかなど、いろいろ理由は考えられる。やはり、なぜ、「医療機関を今以上に受診したくない」のかという理由を書くべきところである。

以上のことから、障害認定基準を研究する本研究に対する知見としては次のことが考えられる。

認定基準を研究するには、どのようなサービスを提供するために認定基準を設けるのかを明確にする。その際、サービスを評価する明確な基準を明確にする必要がある。また、機能障害者は考慮しなければならないといえる。

参考文献

UN ESCAP(2012)Disability, Livelihood and Poverty in Asia and the Pacific, United Nations Publication

調査1 量的調査

障害団体名： 調査 No：

記載者（本人、代筆（本人との関係））

I. 世帯のプロフィール（障害者を含む世帯全体について記入してください。）

1. 居住地域（該当するものに○をお願いします。）

- 大都市（東京都又は政令指定都市） □市（大都市以外の市） □町 □村 □その他

2. 家族構成（障害者本人を含めて世帯全体を記入してください。）

Table with 6 columns: 構成員 No, 世帯主との関係, 性別, 年齢, 未婚・既婚, 教育歴

Table with 6 columns: 構成員 No, 世帯主との関係, 性別, 年齢, 未婚・既婚, 教育歴

3. 収入と財産

3.1 収入のある人（2の家族構成員のうち職業による収入のある人をすべて記入してください。）

Table with 4 columns: 上表の構成員 No を記入, 職業, 産業分野, 就労形態, 雇用主

3.2 その他の収入（○印）

- 仕送り □ 国または地方自治体の手当 □ 国や地方自治体以外の手当 □ その他

3.3 ひと月の平均世帯収入はどのくらいですか。（ ）円くらい

3.4 あなたの世帯は次の金融機関等との取引（資金の借り入れや預金など）がありますか。

- 銀行 □ 地域の組織 □ コミュニティーの組織 □ 個人の互助団体 □ マイクロファイナンス

(
 その他 (消費者金融、質屋など) 具体的に
 ()

3.5 主な資産 (お持ちのものに○印。その他の資産がありましたら記入してください。)

土地 自宅 車 船 オートバイ 自転車 別荘 その他
 ()

4. 住宅

4.1 所有関係 (○印)

持家
 借家・アパート その他
 ()

4.2 住宅の状況 (○印、数字、または内容を記入してください。)

部屋数: () 室

構造: 木造 鉄筋コンクリート その他
 ()

壁の材質: 木 鉄筋コンクリート その他 ()

屋根の材質: 瓦 トタン わら コンクリート その他 ()

床の材質: 木 畳 樹脂パネル その他 ()

4.3 生活設備 (○印または内容)

	屋内にある	自宅からの距離 (前半は、屋内にない場合に記述してください)
上水道	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
電気	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
トイレ	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
下水/汚水タンク	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
舗装道路		
未舗装道路		
公共交通機関		

5. 社会サービス (○印または内容)

5.1 世帯として、ホームヘルパーの派遣など社会 (福祉) サービスを受けていますか。(公的サービス、ボランティアサービスなどあらゆるものを含みます。) はい いいえ

[はいと答えた方に] どのようなサービスですか。いくつでも下に記入してください。

5.2 受けているサービスの中に、所得補助のための手当等がありますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に]

5.3 これらの所得補助のための手当等は、世帯全体の収入の何パーセントくらいになりますか。

II. 障害者個人プロフィール (障害のある人それぞれについて記入してください)

1. 基礎情報

1.1 年齢: _____ 1.2 性別: 男 女

1.3 世帯主との関係 (世帯主の _____)

1.4 あなたには扶養者はいますか。 はい いいえ

1.5 [はいと答えた方に] 何人ですか。 () 人

1.6 障害の種類 (○印または内容。複数可。)

	障害の状態について簡単に記述してください。
身体障害	
<input type="checkbox"/> 視覚障害	
<input type="checkbox"/> 聴覚障害	
<input type="checkbox"/> 言語障害	

<input type="checkbox"/> 知的障害	
<input type="checkbox"/> 精神障害	
<input type="checkbox"/> 重複障害	
<input type="checkbox"/> その他	
<input type="checkbox"/> 不明	

1.7 障害の原因は何ですか。 ()

障害の発症年齢は何歳ですか。 () 歳

1.8 障害は進行性ですか。 はい いいえ

1.9 介助なしで移動できる範囲 屋内のみ 屋外も可

1.10 外出時、公共交通機関、道路、建物などはアクセシブルですか。

単独で利用できる 補助してもらえれば利用できる どうしても利用できない

1.11 あなたにとって、移動の際の一番のバリアは何ですか。

1.12 あなたはいま福祉機器を使用していますか。 はい いいえ

[使用している方へ] どのような福祉機器を使用していますか。下にいくつでも記入してください。

1.13 あなたは、食事、入浴、衣服の着脱、トイレなど生活介助が必要ですか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] その介助を受けていますか。 はい いいえ

その介助の介助者は、だれですか。 家族 家族以外の人

1.14 福祉機器は持っていない人にお伺いします。福祉機器があれば、日常生活の役に立つと思いますか。 はい いいえ

2. 教育・訓練

2.1 全体で何年学校に行きましたか。 () 年

2.2 最終学歴 (中学卒、高校卒、大学卒、大学院卒 その他 ())

2.3 どのような学校に行きましたか。(すべて記入してください。)

普通学校 () 年 (うち特殊学級 年)、特殊学校 () 年、その他 ()

2.4 在学中に追加の教育・訓練(補習や歩行訓練等)を受けましたか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] 具体的にその内容を下に記入してください。

2.5 学校を中退したことがありますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] その理由は何ですか。下に記入してください。

2.6 職業訓練を受けたことがありますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] 具体的にどのような訓練を受けましたか。下に記入してください。

2.7 他に教育・訓練を受けましたか。(公的または民間とも含みます。) はい いいえ

[はいと答えた方に] どんな教育・訓練を受けましたか。下に記入してください。

3. 雇用

3.1 現在働いていますか。

雇用されている 自営 無職(求職中) 無職(求職していない)

その状態はどのくらい続いていますか。() 年

3.2 職歴

職務内容/ 役職	働いていた期間	辞職した理由	所在地(都市)	仕事の種類	仕事の対価
	年 月			<input type="checkbox"/> 正職員 <input type="checkbox"/> 非正規職員 <input type="checkbox"/> 自営 <input type="checkbox"/> 内職	<input type="checkbox"/> 賃金 <input type="checkbox"/> 現物給付 <input type="checkbox"/> 無給
	年 月			<input type="checkbox"/> 正職員	<input type="checkbox"/> 賃金
				<input type="checkbox"/> 自営 <input type="checkbox"/> 内職	<input type="checkbox"/> 無給

- 3.3 [働いていない方に] 働きたいと思っていますか。 はい いいえ
- 3.4 [働いていない方に] 何が働くことのバリアになっていますか。下に記入してください。
4. 収入
- 4.1 [雇用されている方または自営の方に] あなたの収入だけであなた自身が生活していけますか。
はい いいえ
- 4.2 [雇用されている方または自営の方に]あなたの収入で扶養者を養うことができますか。
はい いいえ
- 4.3 あなたは、世帯の家計を助けていますか。 はい いいえ
- 4.4 あなたは、扶助制度や家族等からの経済的支援を受けていますか。 はい いいえ
[受けている方に] その支援はあなたの収入全体の何%くらいにあたりますか。() %
- 4.5 収入を得られる活動にこれまでの人生全体で何年くらい従事していましたか。約 () 年
- 4.6 緊急の場合、必要な金銭的支援を得られますか。 はい いいえ
[はいと答えた方に] 具体的にどのような支援かをお答えください。
- 4.7 あなたは金銭的支援のための福祉サービスを利用できますか。 はい いいえ
[はいと答えた方に] そのサービスを実際利用したことがありますか。 はい いいえ
- 4.8 あなたは、個人の互助団体に所属していますか。 はい いいえ
- 4.9 あなたのお金の使い道はだれが決めますか。
あなた自身 世帯主 その他 相談して決める
- 4.10 あなたにとって最も大切な財産はなんですか。(具体的に:)
- 4.11 国や地方自治体による融資制度を活用する資格があなたにあるかどうか知っていますか。 はい いいえ
- 4.12 あなたは、所得支援制度を利用したことがありますか。 はい いいえ
- 4.13 これらの所得支援制度を活用できる資格があるにもかかわらず、利用していない方にお聞きします。その理由は何ですか。
5. 収入以外の事項
- 5.1 日常生活での支援を受けていますか。 はい いいえ
[はいと答えた方に] 一日平均何時間くらい支援を受けていますか。() 時間。
- 5.2 家族の生活に関する決定に参加していますか。 はい いいえ
[いいえと答えた方に] なぜ自分で決めていないのか具体的に記述してください。
- 5.3 旅行など家族の活動に参加していますか。 はい いいえ
[いいえと答えた方に] なぜ参加していないのか具体的に記述してください。
- 5.4 地域の活動に参加している はい いいえ
[いいえと答えられた方に] なぜ参加していないか具体的に記述してください。
- 5.5 地域のプロジェクトや政府のプログラムやサービス、あるいは、ボランティア団体などの活動について十分な情報を得ていますか。 はい いいえ
[いいえと答えられた方に] なぜ情報を得られないか具体的に記述してください。
- 5.6 医師や保健師・看護師の診察や指導を定期的に受けていますか。 はい いいえ
- 5.7 医療に関して次のサービスの評価してください。
医療費の自己負担額は適当ですか。 はい いいえ
あなたの医療ニーズに合っていますか はい いいえ
病院の建物の物理的なアクセスは良いですか はい いいえ
医療機関は自宅近くにありますか はい いいえ
医療は信頼できますか。 はい いいえ
- 5.8 医師や保健師・看護師に今以上に診察や指導を受けたいですか。 はい いいえ
- 5.9 あなたの生活状況は次のどれにあてはまりますか。

- 生活ニーズを満たすことができる。
- 生活ニーズを満たすことができるが、かなり難しい。
- 生活ニーズを満たすことができない。
- 全く満足していない 満足していない 満足しているともいえないともいえない
- 満足している 非常に満足している

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
「障害認定の在り方に関する研究」
平成 24 年度 総括・分担研究報告書
平成 25 年 3 月発行

発行者 江藤文夫（研究代表者：国立障害者リハビリテーションセンター）
〒359-8555 埼玉県所沢市並木 4-1

